

IV 生物多様性が保全される森林づくり

施策の方向

森林には、木本類・草本類・シダ類・コケ類等の植物、哺乳類・鳥類・は虫類・両生類・魚類・昆虫類等の動物などが多種多様に生息・生育しています。

適切に管理されていない針葉樹人工林では、生物多様性保全機能が低下することから、混交林への誘導、皆伐後の再生林の促進により、多種多様な動植物の生息・生育環境としての森林の保全を進めます。

また、集団的に樹木を枯死させる森林病虫害の防除、採食により下層植生に影響を及ぼすニホンジカの生息密度の適正化などに努めることにより、森林を生息・生育環境とする野生動植物の適正な保護管理を推進します。

現状・目標値

指標設定の趣旨	指標項目	現況値	目標値(R12)	施策
生物多様性の保全に繋がる取り組みを評価する指標として活用	混交林への誘導整備面積（期間累計）	227ha (R3-6 累計)	380ha (R8-12 累計)	生息・生育環境としての森林の保全
病虫害・野生動植物の適正管理を評価する指標として活用	林業被害実損区域面積（病虫獣害）	191ha (R5)	160ha	野生動植物の適正な保護管理

施策の概要

(1)生息・生育環境としての森林の保全

森林には、高木・中木・低木・下層植生などが複雑に生育することから、光・温度・湿度などの環境条件が場所によって異なり、さまざまな動植物の存在を可能にしています。

本県の森林構成の特徴として、人工林が森林に占める割合は全国平均（41%）を上回る 61%ありますが、林業を通じて適切に管理された人工林は、原生的な天然林や、二次的な里山林と同様に、本県の生物多様性の保全に寄与してきました。

しかし、長引く林業の不振などから、適切に管理されていない人工林が増加するなか、生物多様性保全機能の低下が懸念されています。

今後、間伐や伐採後の再造林等、人工林の適切な管理を推進するとともに、施業放置された人工林を、より生物多様性保全機能が高い混交林へ誘導することで、多くの動植物が生息・生育できる森林づくりを推進します。

目標 生物多様性の保全に繋がる森林づくりを推進します。

関連指標

指標設定の趣旨	指標項目	現況値	目標値(R12)
生物多様性の保全に繋がる取り組みを評価する指標として活用	混交林への誘導整備面積（期間累計）	227ha (R3-6 累計)	380ha (R8-12 累計)

①人工林から生物多様性の高い混交林への誘導

適切に管理されていないことで生物多様性の低下が懸念される人工林を、多様な動植物の生息・生育が期待される混交林（恒続林・自然林）に誘導します。

事業例

- 恒続林化施業計画の作成・実施
- 県有林恒続林化モデル整備
- 県・市町村による自然林混交林化の促進推進

②生物多様性の保全に寄与する人工林の整備促進

間伐等の森林整備を促進し、人工林における生物多様性を保全します。また、皆伐跡地における植栽や天然更新等を適切に行うことで、健全な森林環境を維持します。

事業例

- 造林事業の促進（森林所有者・林業事業者実施）
- ニホンジカ等による食害防止対策への支援
- 「奈良県伐採・更新施業のガイドライン」の周知・指導

(2)野生動植物の適正な保護管理

ナラ枯れ、マツ枯れ等、樹木の集団的な枯死を引き起こす森林病虫害の防除対策を進めます。

奈良県野生生物目録（H29）に記載のある生物 11,222 種のうち、絶滅の恐れがある野生動植物は 1,535 種と全体の 13.7%を占めています。森林における生物多様性の保全を図るため、奈良県特定希少野生動植物の保護管理、各種法令規制・指導の徹底、普及啓発に取り組みます。

また、近年生息数が増加するとともに生息域が拡大し、生態系や農林業への被害が拡大・深刻化しているニホンジカや、目撃情報や集落への出没件数が増加し、林業被害や人身被害も懸念されているツキノワグマ等の野生動物について、適正な保護管理を推進します。

目標 野生動植物の適正な保護管理を推進します。

関連指標

指標設定の趣旨	指標項目	現況値	目標値(R12)
病虫害・野生動植物の適正管理を評価する指標として活用	林業被害実損区域面積（病虫獣害）	191ha (R5)	160ha

① 森林病虫害の防除

森林病虫害により一定の樹種が大量に枯死する被害（ナラ枯れ、マツ枯れ等）を予防するとともに、森林病虫害の駆除により被害拡大を防ぐ取り組みを推進します。

事業例

- 被害状況の把握
- 薬剤の注入等による被害予防対策の促進
- 被害木の伐採と材内の森林病虫害駆除等による被害拡大対策の促進

② 希少野生動植物の保護

定期的に奈良県版レッドデータブックを改訂して保護の必要性がある種を明らかにするとともに、その適正な保護を図るため、奈良県特定希少野生動植物の保護管理、各種法令規制・指導の徹底、普及啓発に取り組みます。

また、ツキノワグマを集落に寄せ付けない取組や、被害軽減のための普及啓発を実施するなど、適正な保護管理を推進します。

事業例

- 生物多様性なら戦略協働推進事業の推進
- 特定希少野生動植物保護管理事業計画の見直し、保護管理事業の実施
- 奈良県版レッドデータブック・奈良県野生生物目録等の改訂
- 自然公園法・鳥獣保護管理法・外来生物法等による規制・指導
- 被害軽減に向けたツキノワグマの保護と管理

③ ニホンジカ生息密度の適正化

野生のニホンジカによる植栽した苗木や天然に発芽した稚樹の採食被害を軽減し、森林の再生や生物多様性の向上を促進するため、生息数が増加したニホンジカの個体数管理を実施します。

事業例

- 保護管理事業計画の策定・推進
- ニホンジカ生息密度の適正化、植生の被害防止
- ニホンジカの捕獲技術の向上支援
- 捕獲技術者の育成・確保

V 森林のレクリエーション機能の強化

施策の方向

森林は、セラピー、エコツアー、文化体験、レクリエーション活動等の場となり、心身の健康を回復できる機会を提供してくれます。そのため、国立・国定公園をはじめとする自然公園の保全・活用や適切な森林の整備を進めるとともに、森林・里山等のレクリエーションでの活用を促進します。

また、森林の4機能や森林環境管理についての理解・関心を深め、森林と人との恒久的な共生に関する意識を醸成するため、森林をフィールドとしたイベントの開催や森林に関する環境教育の機会づくりに取り組みながら、これらの担い手となる人材を養成します。

これらの取組を通して、森林と人が良好な関係を築きながら、交流人口の増加による山村地域の活性化を図り、森林を将来にわたって県民の貴重な財産として引き継いでいくことを目指します。

現状・目標値

指標設定の趣旨	指標項目	現況値	目標値(R12)	施策
森林の利用者数を評価する指標として活用	自然公園等の利用者数	10,970 千人/ 年 (R5)	14,000 千人/ 年 (R12)	レクリエーションの場づくり
イベント等の活用を評価する指標として活用	体験学習（森の学校）への参加者数（期間累計）	2,109 人 (R3-6 累計)	3,100 人 (R8-12 累計)	イベント等の活用によるレクリエーションの機会づくり

施策の概要

(1)レクリエーションの場づくり

奈良県森林環境税県民等意識調査（令和6年度実施）では、回答者の約50%が年に数回以上森林に立ち入っていることがわかりました。国立、国定公園をはじめとする自然公園でのレクリエーション利用者は、新型コロナウイルスの影響により一時的に減少しましたが、その後、増加傾向にあります。

県民が気軽に森林に立ち入り、快適にレクリエーション活動を行えるよう、自然公園の保全・活用やレクリエーション機能を有する森林の整備を進めるとともに、森林・里山等におけるレクリエーション活動の活性化を図ります。

目標 森林をレクリエーションの場とする利用者を増やします。

関連指標

指標設定の趣旨	指標項目	現況値	目標値(R12)
森林の利用者数を評価する指標として活用	自然公園等の利用者数	10,970千人/ 年 (R5)	14,000千人/ 年 (R12)

① 自然公園の保全・活用

国立・国定公園をはじめとする自然公園の保全を図るとともに、その魅力を高め、利用者の利便性を向上させるため、遊歩道、トイレ、ビューポイント等の施設整備を推進します。

事業例

- 国立・国定公園や県立自然公園の施設整備（遊歩道、トイレ、ビューポイント等）
- 長距離自然歩道の施設整備（案内サイン、休憩所等）
- 自然公園等利活用促進の情報発信

② 森林におけるレクリエーションの場づくりの支援

レクリエーション活動の場にふさわしい森林の整備を進めるとともに、県民が気軽に参加できる、森林や里山等をフィールドとしたレクリエーション活動を支援します。

事業例

- 県有林恒続林化モデル整備
- 森林をフィールドとしたレクリエーション活動の推進
- ボランティア等による森林・里山等におけるレクリエーション活動の支援

(2) イベント等の活用によるレクリエーションの機会づくり

森林は、セラピー、エコツアー、文化体験、レクリエーション活動等の場となり、心身の健康を回復できる機会を提供してくれます。

このような森林の持つレクリエーション機能への理解・関心を深め、森林と人との恒久的な共生の意識を醸成させるためにも、森林をフィールドとしたイベントの開催や森林に関する環境教育の機会づくりに取り組み、その成果を地域の活性化に繋いでいきます。

目標 イベント等を活用して森林のレクリエーション機能を強化します。

関連指標

指標設定の趣旨	指標項目	現況値	目標値(R12)
イベント等の活用を評価する指標として活用	体験学習(森の学校)への参加者数(期間累計)	2,109人 (R3-6累計)	3,100人 (R8-12累計)

① イベント等の活用による森林レクリエーションの機会づくり

多くの県民・来訪者が森林にふれあう機会を持てるよう、森林をフィールドにしたイベント等を企画・開催し、地域のにぎわいづくりや活性化を図ります。

事業例

- 自然、歴史文化、景観等、森林の特性を活かしたイベントの開催
- フォレスターアカデミーの学生等による森林レクリエーション活動の実施
- 第77回全国植樹祭の開催とそれを契機とした県民参加型緑化運動の推進
- 「奈良県山の日・川の日」「山と川の月間」イベントガイドブックの作成・配布

② 森林環境教育の推進

県民が森林環境の維持向上に対する理解を深め、森林との共生を実感できるよう、森林での体験型森林環境教育の実施、普及啓発に取り組みます。

事業例

- 「森の学校」の開催
- 森林環境教育活動への支援
- 森林環境教育副読本の作製・配布
- 森林環境教育の指導者の養成